

防災塾

No.16

自分や家族は、何処で大地震に遭うのだろうか！ その時、どう命を守るのか！ 想像したことが有りますか？

下表は、気象庁の資料から抜粋した物です。こういう震度の時に、自分や家族がどこに居るのか想像してみてください!!

家（自宅）の中、外、自宅以外の建物の中、乗り物の中など等。

防災として、「家や家財の耐震対策を」と言われ、自宅への対策をしてみましたので、家族の就寝時間や、日中、自宅で過ごす高齢者や主婦、子供達は比較的守られると思います。しかし、自宅で地震への備えはしていても、自宅を一歩出ると全くの無防備です。

その時に地震が発生したら、どう行動すれば命を守れるのでしょうか!!

表では震度5弱～7で発生する各々の異なる被害の状況を説明していますが、震度7を想定して、持っている物を使うことや、周囲を見回して安全を確保するなど、**命を守る、ケガをしない行動をすることを、日頃から心がけて下さい。**

※震度5強が災害対策本部を立ち上げる目安です。

気象庁震度階級関連解説表（要約版） ※詳細は、気象庁ホームページを参照して下さい。

計測震度／震度階級	5.0／5弱	5.5／5強	6.0／6弱	6.5／6強	6.5以上／7
人間	多くの人が身の安全を図ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。	非常な恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	立っていることが困難になる。	立っていることができず、はわないと動くことができない。	揺れにほんろうされ、自分の意思で行動できない。
室内の状況	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。
屋外の状況	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。補強されていないブロック塀が崩れることがある。道路に被害が生じることがある。	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。	かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	ほとんどの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。
木造の建物	耐震性の低い住宅では壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い住宅では壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。	耐震性の低い住宅では倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い住宅では倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも壁や柱がかなり破損するものがある。	耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破壊するものがある。
鉄筋コンクリート構造物	耐震性の低い建物では壁などに亀裂が生じるものがある。	耐震性の低い建物では壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。耐震性の高い建物でも壁などに亀裂が生じるものがある。	耐震性の低い建物では壁や柱が破損するものがある。耐震性の高い建物でも壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。	耐震性の低い建物では倒壊するものがある。耐震性の高い建物でも壁や柱が破損するものがある。	耐震性の高い建物でも傾いたり、大きく破壊するものがある。
ライフライン	安全装置が作動し、ガスが遮断される家庭がある。まれに水道管の被害が発生し、断水することがある。停電する家庭もある。	家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生することがある。一部の地域でガス、水道の供給が停止することがある。	家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生する。一部の地域でガス、水道の供給が停止し、停電することもある。	ガスを地域に送るための導管、水道の配水施設に被害が発生することがある。一部の地域で停電する。広い地域でガス、水道の供給が停止することがある。	広い地域で電気、ガス、水道の供給が停止する。
地盤・斜面	軟弱な地盤で亀裂が生じることがある。山地で落石、小さな崩壊が生じることがある。	軟弱な地盤で亀裂が生じることがある。山地で落石、小さな崩壊が生じることがある。	地割れや山崩れなどが発生することがある。		大きな地割れ、地すべりや山崩れが発生し、地形が変わることもある。

この震度は、原則として地表や低層建物の一階に設置した震度計による観測値です。この資料は、ある震度が観測された場合、その周辺で実際にどのような現象や被害が発生するかを示すもので、それぞれの震度に記述される現象から震度が決定されるものではありません。

地震に無関心では、自分や家族を守れません。ぜひ、今後開催する「防災塾」へ足を運んでください。

「防災塾」の開催日は階段下掲示板へ貼り出します。(コロナで活動休止中)

「防災塾」塾長・防災士 竹内 一三 ☎046-254-7137 後援：相武台グリーンパーク災害対策合同会議